

BE KOBE

竜が台中学校校区における学校規模適正化(小規模校対策)

第4回説明会

2025年12月19日(金) 9:30~、13:30~

菅の台小学校

2025年12月20日(土) 10:00~

竜が台中学校

2025年12月22日(月) 19:00~

竜が台小学校

神戸市教育委員会事務局 学校環境整備課



BE KOBE

☆本日の予定

- 1 前回までの振り返り
- 2 小中一貫教育、義務教育学校の成果や課題
- 3 意見交換
- 4 これまでの意見交換を踏まえた教育委員会としての考え方



1 前回までの振り返り

BE KOBE

(1)学校規模適正化に関する説明会

	対象者及び参加者数	日程	場所
説明会①	保護者(在校生) 延べ54人	2024年10月16日(水) 9:35~、14:30~ 10月17日(木) 9:40~、13:00~ 10月23日(水) 9:30~	竜が台小学校 菅の台小学校 竜が台中学校
説明会②	保護者(在校生・未就学児) 延べ136人	2025年2月27日(木) 9:30~、13:30~ 3月1日(土)10:00~ 3月3日(月) 9:30~、13:30~	菅の台小学校 竜が台中学校 竜が台小学校
	地域(竜が台および菅の台ふれあいのまちづくり協議会) 約30人	2025年4月13日(金)10:50~ 4月26日(土)17:00~	竜が台地域福祉センター 菅の台地域福祉センター
	地域(竜が台および菅の台連絡協議会) 約50人	2025年5月9日(金)19:00~ 2025年5月25日(日)10:45~	菅の台地域福祉センター 竜が台地域福祉センター
説明会③	保護者(在校生・未就学児) 地域 延べ84人	2025年9月4日(木) 9:30~、13:00~ 9月5日(金)19:00~ 9月6日(土)10:00~	菅の台小学校 竜が台小学校 竜が台中学校



○これまでに説明した主な内容

BE KOBE

①学校規模の定義

	小規模	適正規模	大規模
小学校 (163校)	11学級以下	12~24学級	25学級以上
	2023年度 56校(約34%)	89校(約55%)	18校(約11%)
	2024年度 55校(約34%)	90校(約55%)	18校(約11%)
	2025年度 61校(約37%)	84校(約52%)	18校(約11%)
中学校 (82校)	8学級以下	9~18学級	19学級以上
	2023年度 18校(約22%)	56校(約68%)	8校(約10%)
	2024年度 19校(約23%)	55校(約67%)	8校(約10%)
	2025年度 20校(約24%)	53校(約65%)	9校(約11%)

※割合は小数第一位を四捨五入して表示。



②小規模校の主な課題

- ・集団の中で、多様な考え方方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。
- ・運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。
- ・児童生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習など、多様な学習・指導形態を取りにくい。
- ・クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。
- ・集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につきにくい。

文部科学省「公立小学校・中学校の規模適正・適正配置等に関する手引き」および中央教育審議会初等中等教育分科会「小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会」（第8回）配布資料を参考



③小規模校の良さと課題(一例)

良さ	課題
<ul style="list-style-type: none">・校外学習を行いやすい。・お互いのことを認め合っている。・男女の隔てがない。・教職員が子供たち一人一人のことを共通理解して接することができる。・施設面で、急な時間割変更等にも対応しやすい。	<ul style="list-style-type: none">・行事の際の活気が少ない。・多様な学習形態を行いにくい。・クラス替えができない。・一度人間関係が崩れると学校生活が厳しくなる。・人間関係の固定化が生じてくる。・教職員への依存度が高まる。・社会性が身につきにくい。・教職員の負担が大きい。・急な対応が必要となった際に手が足りない。・単学級の中に転入しにくい。



④適正規模になることで期待される効果

BE KOBE

- ・良い意味での競い合いが生まれる、向上心が高まる。
 - ・以前よりもたくましくなる、教師に対する依存心が減る。
 - ・社会性やコミュニケーション能力が高まる。
 - ・切磋琢磨する環境の中で学力や学習意欲が向上する。
 - ・友人が増える、男女比の偏りが少なくなる。
 - ・多様な意見に触れる機会が増える。
 - ・異学年交流が増える、集団遊びが成立するようになる、休憩時間や放課後での外遊びが増える。
 - ・学校が楽しいと答える子が増える。
 - ・進学に伴うギャップが緩和される。
 - ・多様な進路が意識されるようになる。

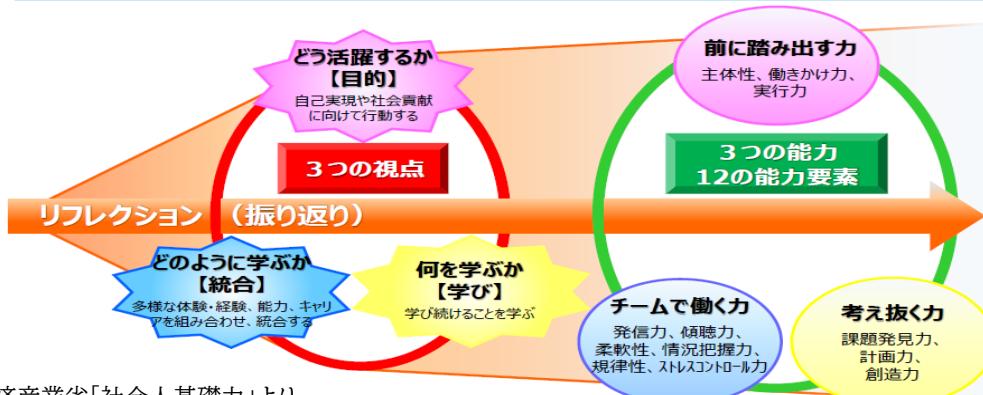
文部科学省「公立小学校・中学校の規模適正・適正配置等に関する手引き」を参考

⑤これからの子供たちに求められる力

BE KOBE

「人生100年時代の社会人基礎力」とは

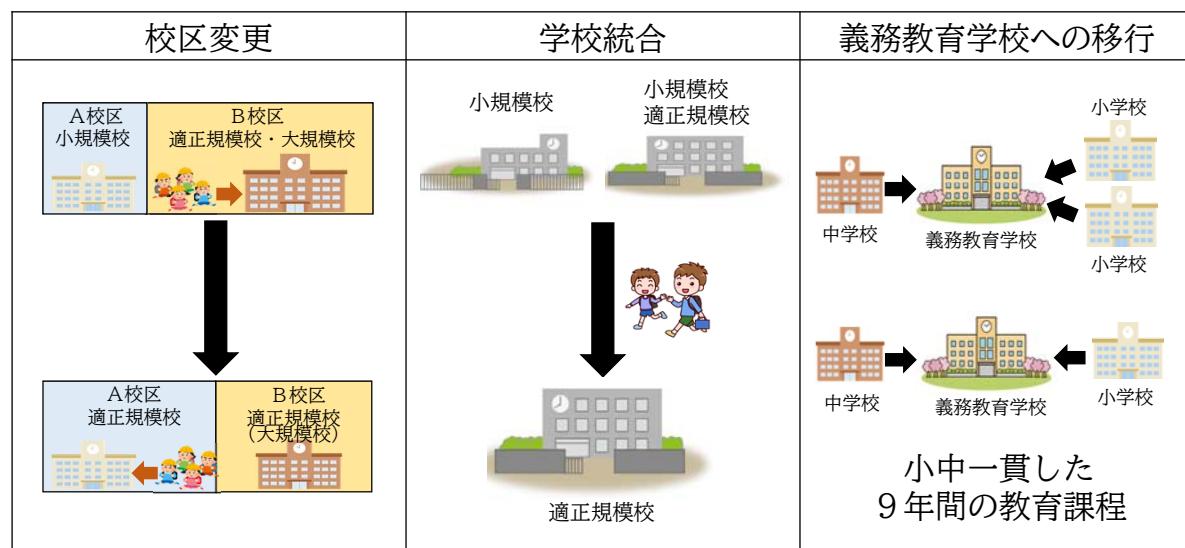
「人生100年時代の社会人基礎力」は、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力と定義され、社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置付けられる。



経済産業省「社会人基礎力」より

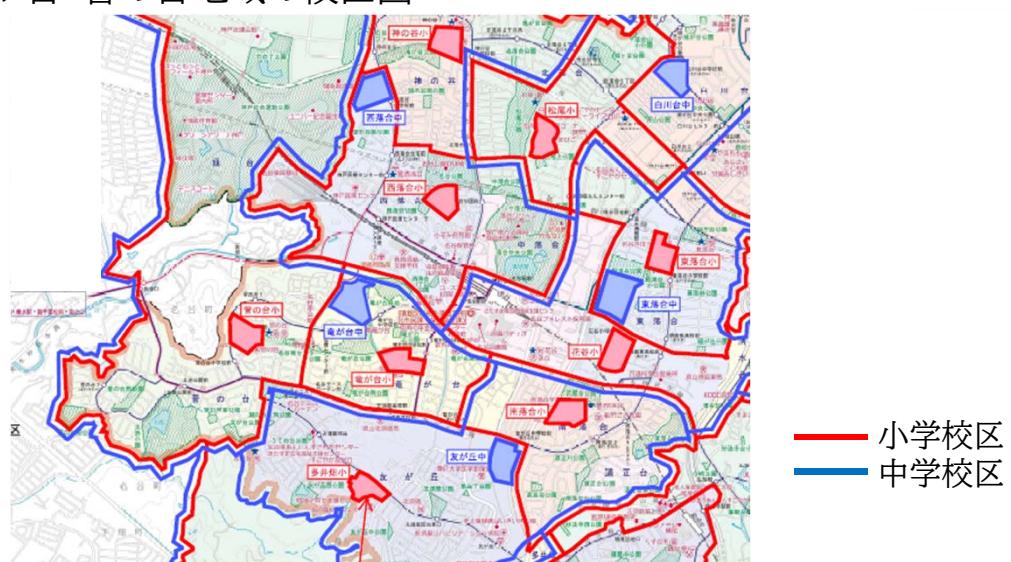
⑥小規模校への取り組みの内容

BE KOBE



⑦竜が台・菅の台地域の校区図

BE KOBE



⑧竜が台小・菅の台小・竜が台中の児童生徒数、学級数の推移 **BE KOBE**

		2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)
竜が台小	児童数	143	134	150	150	160	170	180	200
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	7
菅の台小	児童数	209	204	200	200	200	190	190	200
	学級数	8	8	8	8	8	7	7	8
竜が台中	生徒数	183	187	180	160	160	170	170	170
	学級数	6	6	6(6)	6(6)	6(6)	6(6)	6(6)	6(6)

※2024・2025年度は各年度の5月1日時点。2026年度以降は推計値(児童生徒数は一の位を四捨五入)。

※学級数に特別支援学級は含まず。

※中学校の()内の数は、仮に35人学級へ段階的に移行した場合の学級数



⑨周辺校の児童生徒数・学級数の推計

BE KOBE

小学校		2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)
西落合小	児童数	375	346	330	280	250	230	210	190
	学級数	13	13	13	12	10	10	9	9
花谷小	児童数	273	252	230	240	240	230	220	210
	学級数	12	11	10	10	9	9	9	9
南落合小	児童数	302	296	290	270	280	280	290	270
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	12
多井畠小	児童数	234	256	260	260	250	240	250	250
	学級数	10	11	11	11	10	10	11	11

※2024・2025年度は各年度の5月1日時点。2026年度以降は推計値(児童生徒数は一の位を四捨五入)。

※学級数に特別支援学級は含まず。



BE KOBE

中学校		2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)
西落合中	生徒数	320	327	330	320	320	300	260	240
	学級数	9	9	9(10)	9(11)	9(11)	9(10)	8(8)	7(8)
友が丘中	生徒数	301	270	250	260	260	260	240	250
	学級数	8	7	7(7)	8(8)	8(9)	8(9)	7(9)	8(9)
東落合中	生徒数	295	285	280	280	270	260	270	270
	学級数	9	8	8(8)	8(8)	8(9)	8(9)	8(9)	8(9)

※2024・2025年度は各年度の5月1日時点。2026年度以降は推計値(児童生徒数は一の位を四捨五入)。

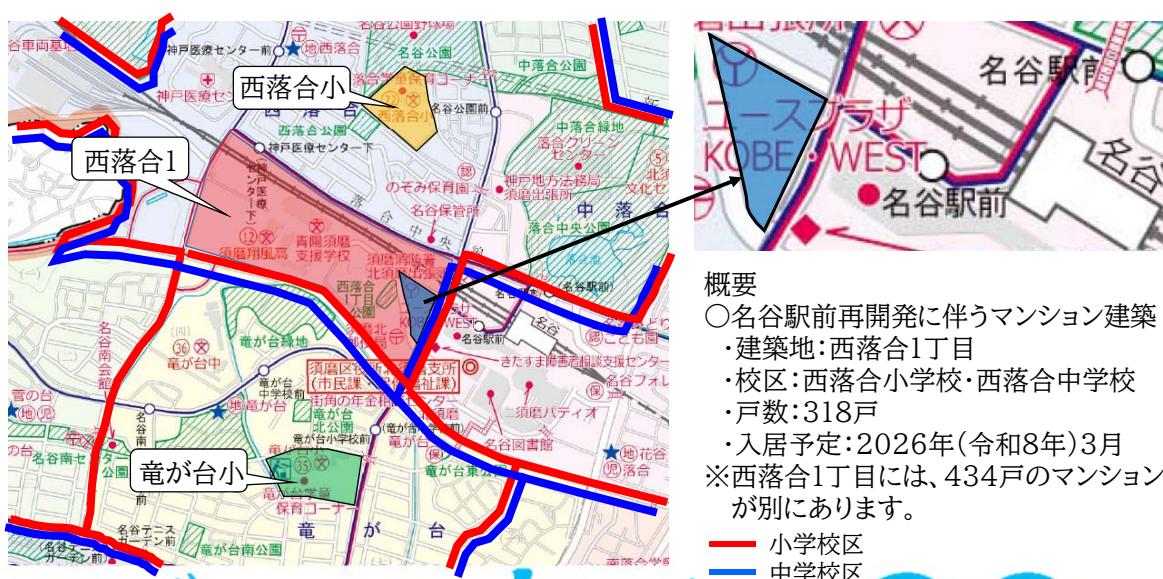
※学級数に特別支援学級は含まず。

※中学校の()内の数は、仮に35人学級へ段階的に移行した場合の学級数



⑩校区変更について

BE KOBE



概要

- 名谷駅前再開発に伴うマンション建築
- ・建築地:西落合1丁目
- ・校区:西落合小学校・西落合中学校
- ・戸数:318戸
- ・入居予定:2026年(令和8年)3月
- ※西落合1丁目には、434戸のマンションが別にあります。

— 小学校区
— 中学校区

⑩校区変更について

BE KOBE

ア 仮に西落合1丁目全体を竜が台小・中学校区に変更した場合

		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)
竜が台小	児童数	320	300	280	260	310	310	310
	学級数	12	12	12	12	12	12	12
西落合小	児童数	232	210	200	180	150	130	110
	学級数	10	9	9	7	6	6	6
竜が台中	生徒数	229	260	270	260	250	240	240
	学級数	7	8	9	8	8	7	8
西落合中	生徒数	246	220	220	210	210	220	210
	学級数	7	6	6	6	6	6	6



⑩校区変更について

BE KOBE

イ 仮に新築マンションのみを竜が台小・中学校区に変更した場合

		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)
竜が台小	児童数	134	140	149	150	220	240	260
	学級数	6	6	6	6	8	9	10
西落合小	児童数	418	370	340	290	240	210	170
	学級数	15	14	14	11	10	8	7
竜が台中	生徒数	168	170	170	170	160	160	160
	学級数	6	6	6	6	6	6	6
西落合中	生徒数	307	310	310	310	300	300	290
	学級数	9	9	9	9	9	9	9



⑩校区変更について

BE KOBE

【学校運営協議会、竜が台小第1回説明会で頂戴したご意見】

- ・校区変更をすると相手校が小規模校となってしまうことが分かった。
 - ・今後、どの校区でも子供の数が減っていくので、校区変更をすると子供の取り合いになる恐れがある。

校区変更は難しい



⑪学校統合について

BE KOBE

○小学校同士の統合

- ・もともと菅の台小から分かれて竜が台小ができるので、戻ってくればいい。
 - ・竜が台小の場所は駅近だから、跡地を売却しやすい。
 - ・菅の台小までの通学は大変。
 - ・竜が台小までの通学は大変。
 - ・地域間にしこりが残りかねない。

○中学校同士の統合

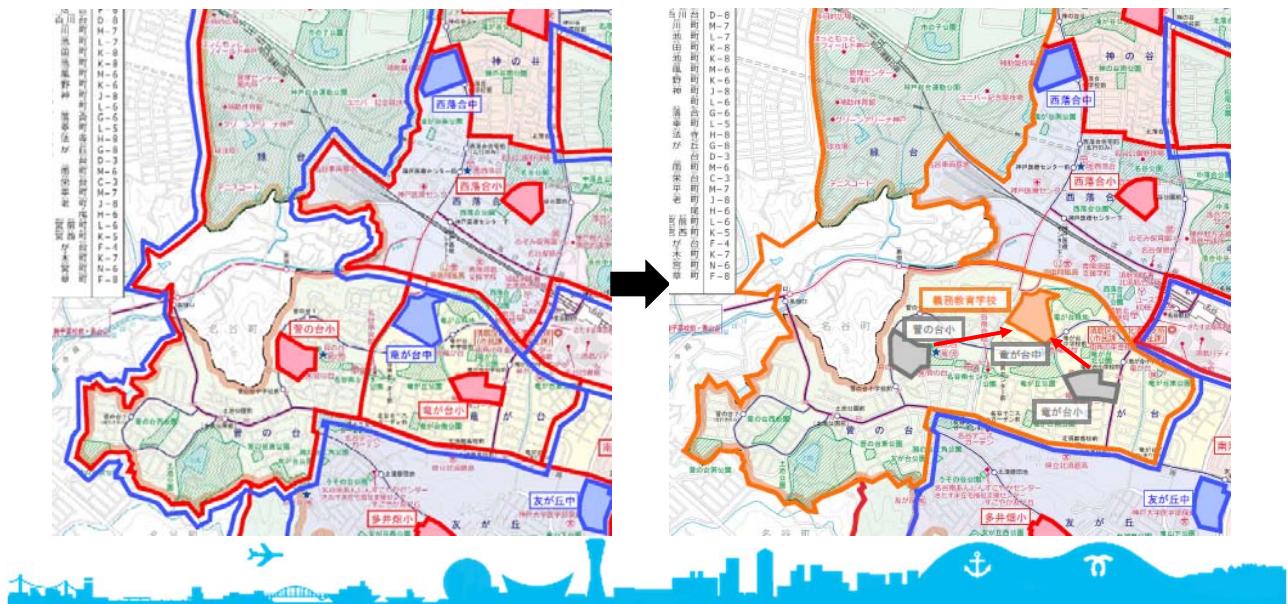
- ・校区が広くなり、通学が大変になる。
 - ・竜が台中の方が通学路は安全である。
 - ・他校の生徒と関わりをもつことで行動範囲が広がってしまうのではないか。

▶ 学校統合は難しい



BE KOBE

⑫義務教育学校への移行案



BE KOBE

○義務教育学校へ移行した場合の児童生徒数、学級数の推計

		2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)
前期課程	児童数	338	350	350	360	360	370	400
	学級数	12	12	12	12	12	12	13
後期課程	生徒数	187	180	160	160	170	170	170
	学級数	6	6	6	6	6	6	6
合計	児童生徒数	525	530	510	520	530	540	570
	学級数	18	18	18	18	18	18	19

※義務教育学校の適正な学級規模→18学級以上27学級以下
(学校教育法施行規則第七十九条の三)



○義務教育学校への移行に関する主なご意見

- ・クラス替えができるようになるので、良いと思います。
- ・異学年交流を行うことは良いことだと思います。
- ・義務教育学校をこの地域の魅力としていきたいです。
- ・小学生と中学生が一緒の場所で学ぶことにメリットがあると思います。
- ・子供たちは、より多くの先生と関わることができるので良いと思います。
- ・義務教育9年間で子供たちを育てるということはいいことだと思います。



○義務教育学校への移行に関する主なご意見

- ・小学校低学年と中学生が一緒の場所で生活をすることが心配です。
- ・9年間同じ場所で生活するので、人間関係の固定化が心配です。
- ・6年生のリーダーシップを養う機会がなくなるのではないかですか。
- ・小学校卒業という達成感がなくなるのではないかですか。
- ・先生の負担が増え、子供たちに目が行き届かなくならないか心配です。



○義務教育学校への移行に関する主なご意見

中学生は責任感や年少者に対する優しさが育まれたり、小学生は目標や見通しをもって過ごすことができるようになります。

前期課程(小学校課程)においてクラス替えが可能になることや、異学年交流を活発に行することで人間関係の固定化を軽減することができると考えています。

学年の区切りを4-3-2制としている学校では4・7・9年生時にリーダー経験を積ませるなど、リーダー性を養う機会を増やしています。

小学校の卒業式の代わりに修了式、中学校の入学式の代わりに進級式を行ったり、日々の教育活動で達成感を得られるように工夫したりしている学校があります。

小中一貫のカリキュラムや学校のきまりなどを検討する必要があります。教育委員会も協力をすることで、教員の負担軽減を図っていきたいと思います。

開校後は、学年(チーム)担任制や少人数指導などの工夫をし、より多くの目で子どもたちを見守っていきたいと考えています。



○義務教育学校への移行に関する主なご質問

- ・制服はどうなるのですか。
- ・小学校の卒業式や中学校の入学式などの行事はどうなるのですか。
- ・授業時間は今のまですか(小学校45分、中学校50分)
- ・PTAはどうなるのですか。
- ・義務教育学校では、学年の区切りについて6-3制よりも4-3-2制のほうが多いと聞きました。今回は、どのような学年の区切りを考えているのですか。



各項目において、『こうしなければならない』というきまりはありません。子どもたちの実態に応じて検討を進めていきます。



(2)学校規模適正化検討委員会

【目的】

教育委員会が1つの案として示した「義務教育学校への移行案」について具体的に検討する。

【委員構成】

・竜が台小、菅の台小、竜が台中の保護者(各2人:計6人)
・竜が台地域、菅の台地域の代表(各2人:計4人) 計10人

【学校、神戸市教育委員会事務局】

・竜が台小、菅の台小、竜が台中の校長
・学校環境整備課



【開催日および場所】

第1回	2025年5月23日(金)	竜が台中学校
第2回	2025年6月26日(木)	竜が台中学校
第3回	2025年7月24日(木)	竜が台小学校
第4回	2025年9月25日(木)	菅の台小学校
第5回	2025年11月11日(木)	竜が台中学校

(3)情報共有(説明会、学校規模適正化検討委員会)

- ①保護者へすぐーる配信
- ②地域の掲示板や回覧板の活用
- ③神戸市のホームページに掲載

<https://www.city.kobe.lg.jp/a11243/kosodate/gakko/school/gimukyoiku/ryugadai/torikumi.html>

※竜が台小、菅の台小、竜が台中 各学校ホームページにもバナーを設けています。



☆本日の予定

- 1 前回までの振り返り
- 2 小中一貫教育、義務教育学校の成果や課題
- 3 意見交換
- 4 これまでの意見交換を踏まえた教育委員会としての考え方



○小中一貫教育・義務教育学校について

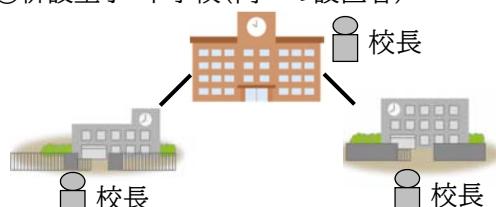
○小中連携教育：小・中学校段階の教員が情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

○小中一貫教育：小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

①義務教育学校



②併設型小・中学校(同一の設置者)



(参考)小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引(平成28年12月26日 文部科学省)



2 義務教育学校の成果や課題

(参考)小中一貫教育の導入状況の調査について(平成29年3月1日 文部科学省)

①成果

○学習指導等

	項目	割合(%)
1	学習規律・生活規律の定着が進んだ	92
2	学習習慣の定着が進んだ	81
3	学習意欲が向上した	80
4	授業が理解できると答える児童生徒が増えた	77
5	勉強が好きと答える児童生徒が増えた	71



①成果

○生徒指導等

	項目	割合(%)
1	中学校への進学に不安を感じる児童が減少した	96
2	上級生が下級生の手本になろうという意識が高まった	94
3	下級生に上級生に対する憧れの気持ちが深まった	93
4	いわゆる「中1ギャップ」が緩和された	93
5	児童生徒に思いやりや助け合いの気持ちが深まった	91
6	異校種、異学年、隣接校間の児童生徒交流が深まった	90



①成果

○教職員の協働等

	項目	割合(%)
1	小・中学校共通で実践する取組が増えた	98
2	小・中学校の教職員間で協力して指導にあたる意識が高まった	97
3	小・中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まった	95
4	小・中学校の指導内容の系統性について教職員の理解が深まった	94
5	教員の指導方法の改善意欲が高まった	92
6	小学校教職員の間で基礎学力保障の必要性に対する意識が高まった	91



①成果

○その他、学校運営等

	項目	割合(%)
1	地域との協働関係が強化された	80
2	保護者の学校への満足度が高まった	76
3	保護者との協働関係が強化された	74



②課題

○学習指導、生徒指導等

	項目	割合(%)
1	9年間の系統性に配慮した指導計画の作成・教材の開発	43
2	年間行事予定の調整・共通化	38
3	小中合同の行事等における発達段階に応じた内容設定	28
4	時間割や日課表の工夫	28
5	児童生徒の人間関係が固定化しないような配慮	27
6	小学校高学年のリーダー性・主体性の育成	22

**②課題**

○教職員の負担等

	項目	割合(%)
1	小中の教職員間での打ち合わせ時間の確保	64
2	教職員の負担感・多忙感の解消	64
3	教職員間での負担の不均衡	49
4	成果・課題の可視化と関係者間での共有	43
5	小・中学校の間での負担の不均衡	42
6	必要な予算の確保	41
7	成果や課題の分析・評価手法の確立	41



BE KOBE

☆本日の予定

- 1 前回までの振り返り
- 2 小中一貫教育、義務教育学校の成果や課題
- 3 **意見交換**
- 4 これまでの意見交換を踏まえた教育委員会としての考え方



BE KOBE

☆本日の予定

- 1 前回までの振り返り
- 2 小中一貫教育、義務教育学校の成果や課題
- 3 **意見交換**
- 4 これまでの意見交換を踏まえた教育委員会としての考え方

